



# 青島の風

青島日本人学校だより  
平成29年12月16日  
校長 金森 孝子

## 平成29年、お世話になりました 【冬休み号】

青島に小雪が舞う頃、長かった2学期の学校生活が終わりました。8月14日から今日まで87日間、日々の学習を土台として、水泳学習、運動会、学習発表会など、子どもたちは季節の変化を感じながらさまざまな教育活動に全力で取り組みました。そして、この間、青島日本人学校の子ども一人一人は、自分の特徴やよさを生かしながら、「ち、ん、た、お」の4つの力を意識し、大きく成長しました。義務教育期の子どもの成長は目を見張るものがありますが、本校は、日々の学習の積み重ねが、行事を通して大きく開花する学校であると確信しています。

このような教育活動に安心して取り組みますのも、学校運営理事会、PTA 役員の皆様はじめ、保護者の皆様方が、多方面にわたりご支援、ご協力くださっているからに他なりません。職員一同、感謝の思いでいっぱいです。

来年は、「戌」(いぬ)年。子どもたちにとって皆様にとってさらに飛躍の年となるよう祈念しております。よいお年をお迎えください。

## 中国語の活動

担当 大石 悠靖

本校の中国語の活動では「中国語に慣れ親しみ、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと」「国際社会において活用できる中国語の基礎を習得すること」の2つを柱とし、各学年において活動計画を作成しています。

小学1・2年生における活動の目安は、簡単な単語に触れ、中国語に慣れることです。中国語が楽しいという気持ちを育てるために、中国語による歌やゲーム、単語カルタなどから「話す」「聞く」を磨いていきます。

小学3・4年生では、低学年で学習した言語材料を活用しながら、さまざまな会話内容に触れ、中国語会話に親しむ活動を行います。またピンインの学習をスタートし、記号と音の一致を身につけ、高学年につながる指導を行います。

小学5・6年生は、中国語会話に慣れる段階と捉えています。ピンインや簡単な中国漢字の「読み」「書き」も取り入れ、中学年までの学習を生かし、友達や教師に対し、自ら進んで中国語でのコミュニケーションを図ろうとする態度を養っていきます。

中学部は習熟度別に初級・中級クラスに分かれて活動をします。座学を中心とした学習形態で、単語・文法・会話の三要素に重きを置き、中国語の基礎から応用まで習得していきます。

この他、毎年小学部・中学部ともに青島の現地校との交流活動を実施しています。歌や遊びなどを通して日中両国の文化を伝えあい、相互理解に努めています。

取り組みの中で、子どもたちは授業で学習したことを生かし、時にはジェスチャーを交えながらコミュニケーションを図る姿が見られます。こうした学習や活動を通して、将来中国語を生かして、国際社会で活躍できる子どもたちの育成を目指します。



4年生は15人と一番多い人数で、男女の仲も良く、休み時間にはいつも教室が空っぽになるほど、毎日元気いっぱい過ごしています。

学級目標の「ひとつになり学ぶ 夢に向かって 勇チャレ4年生」には「みんなで協力して助け合って学び、それぞれの夢を叶えるために、何事にも勇気をもってチャレンジしよう」という気持ちが込められています。「学ぶ」という言葉は色々な意味が込められると思いますが、現在4年生では「学ぶ」の意味を「体験したり、行動したりしたことから、自分が考えを深めたこと」と捉えて学習しています。学習を続けるうちに、毎日の振り返りが「楽しかった」「難しかった」の感想で終わらず、一つ一つ行動の価値を意識できるようになってきました。

水泳学習の全日程が終わり、プールの片付けをした時のことです。担任から「休み時間に4年生が片付けを行うよ」と声をかけ活動を始めると、片付けを一生懸命がんばるものの、遊ぶ時間を削られ乗り気でない子も中にはいました。しかし、1日の振り返りの発表で「今日片付けをしていたら大変だったけど、誰かがやっているからみんなが気持ちよく過ごせている。」「4年生に任せてもらえるから、どんな力が付くし、4年生ならできると思うから任される。」という言葉に、みんながすごく納得する場面があり、それからの行事の片付けではさらに意欲的に活動ができるようになりました。

学校では一人ではなく、みんなといるからこそ得られる学びがあります。これからも、それぞれの夢に向かって、勇チャレできるように助け合い、学んでいきたいと思っています。



**こうちょうだより 好調便り**

「今月の詩」で百人一首を取り上げるのは3回目です。皆さんの中には、百人一首が大好きという人もいれば、ちょっと苦手...、という人もいますね。今回は、「今月の詩」の原稿に挑戦するだけでなく、百人一首カルタ遊びに親しみ楽しむこともあてています。原稿の収録的なお正月遊びの一つ、カルタ遊びは、言葉に触れるチャンスでもあります。

1年2年...2番とその歌人を晴宮  
3年4年...3番とその歌人を晴宮  
5年6年中学部...4番とその歌人を晴宮

---

**百人一首カルタ大会について**

これまでの収録の成果を披露する場として、カルタ大会を行います。

1年~4年  
「今月の詩」8月(17番)10月(13番)  
1月(27番)計57番の中で続きます。

5、6年中学部 100番全部で続きます。

日時:平成30年1月29日(月)朝学習

今月の詩(冬休み 一月(睦月))

百人一首

「百人一首」のカルタ遊びを楽しもう

⑤奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の 声聞く時ぞ秋は悲しき (猿蓑太夫)

⑥鶴の渡せる橋に置く霜の 白きを見れば夜ぞ更ける (大伴家持)

⑪湖の原八十島かけて漕ぎ出でぬと 人になんげよ海人の釣舟 (小野篁)

⑬筑波橋の峰より落つるみなな川 恋ぞ積もりて湖となりぬる (陽成院)

⑭陸奥のしのぶもちずり誰ゆゑに乱れそめにしわれならぬに (源融)

⑮君がため春の野に出でて 若菜摘むわが衣手に雪は降りつつ (光孝天皇)

⑯立ち別れいなばの山の峰に生ふる まつとし聞かば今帰り来む (在原行平)

⑰住の江の岸に寄る波よるさへや 夢の通ひ路人目よくらむ (藤原教行)

⑱難波潟短き葦の節の間も 逢はでこの世を過ぐしてよとや (伊勢)

㉒わびぬれば今は同じ難波なる 身をつくしても逢はむとぞ思ふ

㉓小倉山峰の紅葉葉心あらば 今一度のみゆき待たなむ (藤原)

㉔みかの原わきて流るる泉川 いつ見きとてか恋しかららむ (藤原)

㉕山里は冬ぞ寂しきまきりける 人目も草もかれぬと思へば (源)

㉖心あてに折らばや折らむ初霜の置きまどはせる白菊の花 (凡河内躬恒)

㉗有明のつれなく見えし別れより 暁ばかり憂きものはなし (壬生忠岑)

㉘朝ぼらけ有明の月と見るまで 吉野の里に降れる白雪 (坂上是則)

㉙山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり (春道列樹)

㉚ひさかたの光のどけき春の日に しづ心なく花の散るらむ (紀友則)

㉛誰をかもし知る人にせむ高砂の 松も昔の友ならぬに (藤原興風)

㉜夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを雲のいづこに月宿るらむ (清原深養父)

㉝白露に風の吹きさしく秋の野はつらぬきどめぬ玉ぞ散りける (文屋朝康)

㉞忘らるる身をば思はず誓ひてし 人の命の惜しきもあるかな (右近)

㉟浅茅生の 小野の藤原思ふれど あまりてなどか人の恋しき (源等)

㊱思ふれど色に出でにけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで (平兼盛)

2学期の「今月の詩」は、百人一首、名著の冒頭文、子どもにも馴染み深い詩人の詩に取り組みました。12月は、「注文の多い料理店」(宮沢賢治作)「走れメロス」(太宰治作)と、使われている言葉、言い回しが子どもにとっては難しい課題でしたが、すべてを暗唱して挑戦した子どもも多く、ご家庭での粘り強い取組の結果と感謝しています。1月は、百人一首です。「百人一首大会」用に番外編も用意しました。お正月のご家族での取組をお願いいたします。

平成二十九年 今月の詩「百人一首番外編(小学部五六年中学部)」

41 恋すてふわが名はまださくらにけり 人知れずこころ思ひしめしか (壬生忠岑)

42 架りななかにみしに袖をほりつつ 末の松山波越さじとは (清原元輔)

43 逢ひ見てののちの心にくらぶれば 昔はものを思はざりけり (藤原教忠)

44 逢ふことの絶えてはなかなかに身を思ふも恨みざらし (藤原朝忠)

45 あはれともいふべき人は思はえて身のいたづらになりぬべきかな (藤原伊予)

46 由良の門を渡る舟人かちを絶え ゆくへも知らぬ恋の道かな (曾根好忠)

47 風をいたみ若打つ波のおのれのみ 時けて物を思ふべきかな (源重之)

48 御守衛士のたく火の夜は燃え 屋は清えつものこそ思へ (天中臣能宣)

49 君がため惜しむらざりし命さへ 長もがなと思ひけるかな (藤原兼房)

50 かくとだにえやは伊たのさしも草さしも知らじな燃ゆる思ひを (藤原兼房)

51 明けぬれば暮るるものは知りながらは恨めしき朝ぼらけかな (藤原道隆)

52 忘れじのゆく来まではかれば 今日を限りて命もがな (備前二司母)

53 流の音は絶えて久しくなりぬれど 名を忘れればは聞こえけれ (藤原公任)

54 有馬山踏名の藤原風吹けば いでそよ人を忘れやはする (大式三位)

55 やすらはで寝なましものをさ夜更けて かたふままでの月を見しか (藤原)

60 大江山いづ野の道の通れば まだふも見す天の橋立 (赤津衛門)

61 いにしへの奈良の都の都に けふ小丸重に匂ひつるかな (伊勢大納言)

62 今にはだと思ひ絶えなむとばかりを 入つてなまに匂ひつるかな (藤原)

63 朝ぼらけ宇治川霧たえだにあらはれわたる瀬々の網代木 (藤原定規)

64 恨みわび千さぬ袖だにあるものを 恋にけりなむをこそ惜しけれ (相模)

65 春の夜の夢ばかりなる手紙に かひなくたどらむをこそ惜しけれ (周防内侍)